



公益社団法人
東京都理学療法士協会

NO.230

都士会News

2024.5.27 発行
◆発行 公益社団法人
東京都理学療法士協会
◆発行人 森島 健
◆編集人 井出 大
医療法人社団永生会
法人本部 地域支援事業部
〒193-0942
八王子市桐田町 590-4
TEL :042-661-4025

第59回日本理学療法学会研修大会は
東京都理学療法士協会が担当致します

大会ホームページ <https://smartconf.jp/content/nichiken59>

2024 The 59th annual training workshop for clinical skills of Japanese Physical Therapy Association in TOKYO

第59回日本理学療法学会研修大会 in 東京

59th NICHIKEN 2024.5.29-30 smartconf.jp

2024
Tokyo
Japan

技能がっなぐ未来への進歩
理学療法士としての価値軸を育む

★参加形態★
対面オンラインデマンド配信

★参加に伴う取得可能な点数・ポイント★
○全日程参加により認定理学療法士新規申請要件取得 (対面の必)
○登録理学療法士更新ポイント (対面オンラインデマンド配信)
○認定・専門理学療法士更新の点数 (対面オンラインデマンド配信)

※詳細は大会ホームページにて
後日掲載いたします

会期 2024年6月29日 - 30日
会場 東京国際フォーラム
〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-5-1

大会長 豊田 輝 帝京科学大学
副大会長 池田由美 東京都立大学
準備委員長 岡安 健 東京医科歯科大学病院

QRコード: ホームページ, X (Twitter) 公式アカウント, Facebook 公式アカウント, Instagram 公式アカウント

主催 公益社団法人 日本理学療法士協会
担当士会 公益社団法人 TPTA 東京都理学療法士協会

認定理学療法士新規要件の取得を目的とした参加登録
受付は、定員に達したため終了いたしました。

問い合わせ先 第59回日本理学療法学会研修大会事務局 (株 PCO内) 〒930-0004 富山県富山市桜橋通り 2-25 富山第一生命ビルディング1階
TEL : 076-461-7028 Mail : jimukensyu@nitiken.jp

230号の目次

日本理学療法学会研修大会準備委員	1	スポーツ局子どもの健康・安全部	25～27
第43回東京都理学療法学会大会準備委員会	2～3	スポーツ局パラスポーツ部	28
エスカレーターマナーアップ推進委員会	4～5	スポーツ局人材育成部	29
事務局ライフサポート部	6	倫理委員会	30
地域活性局 ブロック・支部活動	7～14	学術局学術誌編集部	31～32
スポーツ局人材育成部	15	編集後記	32
スポーツ局スポーツ支援・推進部	16～24		

第43回東京都理学療法学会のご案内（第2報）

テーマ：「みんなでつなぐ理学療法のエビデンス」

会期：2024年9月14日（土）～15日（日）

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター <https://nyc.niye.go.jp/wp/>

大会長：今井 覚志（慶應義塾大学病院）

副大会長：山中 誠一郎（初台リハビリテーション病院）

準備委員長：渡辺 重人（東京リハビリテーションセンター世田谷）

URL：<https://tsunagu-43.tokyo/>

一般演題募集期間：2024年3月15日～5月31日

新人演題募集期間：2024年5月1日～6月30日

参加登録：2024年7月1日開始予定

講演（ご講演順）

樋口 貴広 先生（東京都立大学）：視覚運動制御

名倉 武雄 先生（慶應義塾大学）：整形・スポーツのバイオメカニクス

辻 哲也 先生（慶應義塾大学）：がんのリハビリテーション

近藤 国嗣 先生（東京湾岸リハビリテーション病院）：回復期リハビリのエビデンスと未来

斉藤 秀之 先生（日本理学療法士協会）：みんなでつなぐ理学療法のエビデンス

神谷 健太郎 先生（北里大学）：心不全とフレイル

千葉 哲也 先生（玉川病院）：呼吸苦への対応

メインシンポジウム（ご講演順）

山田 実 先生（筑波大学）：研究の始め方・進め方

金子 文成 先生（東京都立大学）：論文の選び方・読み方

相澤 純也 先生（順天堂大学）：クリニカルリーズニング

教育セミナー（ご講演順）

秋保 光利 先生（東京医療学院大学 PT）：血ガスと呼吸機能の評価

清塚 鉄人 先生（三宿病院 医師）：脳画像と運動機能評価

北地 雄 先生（総合東京病院 PT）：明日から始める症例報告

H・トマシュ 先生（慈恵第三病院 医師）：PTに必要な薬の知識

都民公開講座

梅村 悟 先生（西武ライオンズクリニック PT）：痛みなく、速い球を投げるためには！？

企画

パラスポーツ体験会、ハンズオンセミナー、交流広場・交流イベント

ワークショップ：子育て世代の理学療法士が思うこと、ピラティス

シンポジウム：地域リハ、ニューロリハ、子供の健康・スポーツ、スポーツリハ

報告者 第43回東京都理学療法学会準備委員会 野口隆太郎（初台リハビリテーション病院）

第43回東京都理学療法学会のご案内（第2報）

公益社団法人
*TPTA 東京都理学療法士協会

世代や領域を超えて、
みんなでエビデンスをつなぐ

届ける、
伝わる、
つくる、

みんなのでつなぐ理学療法のエビデンス

第43回 東京都理学療法学会

2024

9月14日・15日
Saturday Sunday

会場 国立オリンピック記念青少年総合センター

小田急線参宮橋駅 徒歩7分/JR原宿駅 徒歩20分

大会長 今井 覚志 (慶應義塾大学病院)

準備委員長 渡辺 重人 (東京リハビリテーションセンター世田谷)

特別・教育講演 (10~15講演)
都民公開講座 (1講座)
シンポジウム (3~5セッション)
ハンズオンセミナー (3セミナー)
企業展示

バラスポーツ体験会 (都立会スポーツ局主催)
交流イベント 等を企画・準備しております。

一般演題では
プレゼンテーションを
加味した
表彰を予定

担当ブロック (区西南部西部ブロック)
お問い合わせ: 43rd.pt.tokyo@gmail.com

インクルーシブ教育体験事業「共生社会ってなんだろう？」小学生向けイベントの開催

開催概要

テーマ：共生社会ってなんだろう

日付：2024年7月28日（日）13：30～16：00（受付13：00～）

会場：BPM イベントスペース（世田谷区）

対象：小学生3年生～6年生 費用：無料

昨年に引き続き、エスカレーター教材を使用して、小学生を対象としたインクルーシブ教育体験事業「共生社会ってなんだろう？」を実施いたします。

「障がいがある」という理由で排除されてしまう、できることや選べる道が少なくなってしまう状況が日本にはまだ存在します。障がいを抱える方を支える理学療法士として、多様な他者がともに共存していく社会（共生社会）への理解を深めるためのインクルーシブ教育イベントをと考え計画させていただきました。

ぜひともご参加、周囲へのお声掛けをお願いいたします。

参加申し込みフォーム：<https://questant.jp/q/NTLUOPIP>



案内ポスター

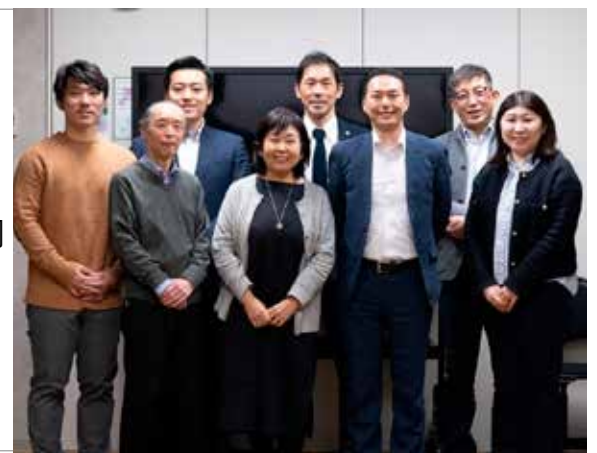


昨年の様子

エスカレーター止まって乗りたい人いる

活動を共にする文京学院大学の^{新田}学長補佐、^{濱田}教授、江戸川大学の^{斗鬼}名誉教授、UD エスカレーターさんと一年を振り返りました。

当委員会からは齋藤委員長と野崎こどもプロジェクトリーダーが参加しました。今後も仲間と共に社会課題に向き合います。



現役小学校教員と座談会 ～小学校向け教材作成にあたって～

2023年11月のニュースに記載致しました座談会の詳細記事が出来ました。
 2022年9月より小学生向け教材作成事業を行ってきました。作成には小学校の先生を始めとした多くの有識者の方々にもご協力をいただきました。今回、ご協力いただいた瑞穂町立瑞穂第一小学校の石坂隆文校長先生と寺側厚雅先生と本委員会の水瀬光汰が教材完成後の座談会を開催いたしましたのでその様子をお伝えいたします。
 当委員会 HP に記事掲載をしておりますのでぜひともご覧ください。

<https://www.pttokyo.net/info/2019/03/10038.html>



<まんが教材>

特設 HP : <https://www.pttokyo.net/esca/>

2023年6月9日から特設サイトよりまんが教材の無料提供を開始しております



<特設 HP QRコード>



<エスカレーターマナーアップ推進委員会>

○各種お問い合わせ (Mail) : esca.pttokyo@gmail.com

○エスカレーターマナー 動画公開 : <https://youtu.be/MRBqxaKEEMM>

○Facebook URL : <https://goo.gl/nnXZcQ>

○X (旧 Twitter) : URL https://twitter.com/tomanoru_esca



Facebook X (旧 Twitter)

報告者：小林和樹 (竹川病院) 水瀬光汰 (練馬光が丘病院)

ライフサポート部からのお知らせ

ライフサポート部では会員の皆様のワークライフバランス支援に関する活動を行っており、その一環として、本年度も講習会を開催いたします。産前産後理学療法に関する研修会、就労支援に関する講習会、労務管理に関する講習会の開催に向けてそれぞれ準備を進めております。各種広報やホームページをご確認ください。皆様のご参加をお待ちしております。

また、ライフサポート部では共に活動する部員も募集しています。会員の就労支援などライフサポート部の活動にご興味のある方は、下記までご連絡いただけますと幸いです。

Email: lifesupport@pttokyo.net

令和6年度第1回講習会

「医療職だからこそ知っておきたい 妊娠・出産とからだの変化」

日時 2024年7月28日(日) 9:30～12:00 Web開催

妊娠・出産経験を経ても安心して就労を継続するためには、当事者・管理者などそれぞれが産前産後の身体変化について知ることが必要と考えられます。本講習会は、「医療職だからこそ知っておきたい妊娠・出産と身体変化」をテーマに、就労継続に必要な妊娠出産に関わる知識を学びます。

2024年度TPTAライフサポート部研修会 医療職だからこそ知っておきたい 妊娠・出産とからだの変化

Web
開催

妊娠中はどんなふうに関わることができるだろうか？ 部下が妊娠、どうサポートしたら？
妊娠中のトランスファーはどうしたらいい？ 産後は同じように働ける？

そんな疑問を感じたことはありませんか。今回、正しい知識をアップデートし、妊娠しても安心して働ける職場にしていくためのセミナーを開催します。

当事者としては自分自身と生まれてくる子どものために、管理者・同僚・パートナー・理学療法士としてはサポートする立場として、それぞれの立場で役立つ知識を学びます。

また、職場での妊娠に関する悩みや働き方など、日頃の悩みについてグループディスカッションを行います。管理職必見、年齢・性別問わずご参加ください。

開催日時 2024/ 7/ 28(日) 9:30～12:00 Web開催 @Zoom
参加費 東京都士会会員 1000円 他県士会会員 3000円 会員外 5000円
講師 永見倫子(東京医科歯科大学病院)
ポイント 登録理学療法士/認定・専門理学療法士 更新ポイント 2.5ポイント
定員 30名(先着順)
申込方法 JPTAマイページ/JPTAアプリより 5/20～申込開始
セミナー番号 127014/ 講義番号 253796
(締め切り:カード7/18、口座振替6/15、現金6/29)
※事前にJPTAアプリのダウンロードをお願いします



主催：東京都理学療法士協会ライフサポート部
問合せ先：lifesupport@pttokyo.net

区西北部ブロック部 板橋区支部
板橋 City マラソンにおけるサポート事業

日時：2024年3月17日（日）

場所：東京都板橋区荒川河川敷

参加者：9764名 完走者：9312名

サポートスタッフ：28名

内容：昨年と同規模での開催となり、約10000名のランナーが参加されました。季節外れの暑い気候となり、昨年より途中棄権される方が多く、昨年0件だった救急搬送ケースが今年は8件と厳しい条件下での大会となりました。我々理学療法ブースでは、スポーツ局と協働により、予防テーピングに加え、今大会はゴール後のコンディショニングも行いました。テーピングは170名、コンディショニングは318名の方に実施をし、限られた時間の中での的確な評価の実践、治療スキルの重要性を改めて実感致しました。また、ゴール後に痙攣や意識障害を呈された方もいらっしゃり、救護室への担架を用いた搬送等、実際の現場で緊迫した状況下で対応する場面もありました。落ち着いて迅速に行動するためにも、日頃からシミュレーションをしておくことや、知識・技術、現場活動の経験を積んでいくことが大切だと改めて実感した学びの多い大会となりました。



報告者：遠藤 洋平（竹川病院）

区西北部ブロック部北区支部
日常生活圏域内における体操指導

日時：2024年3月13日 10:30～11:00

場所：王子4丁目公園（王子エリア）

講師：堀越陵介

参加人数：11名+王子光照苑スタッフ3名

活動・相談内容

- ・認知症に関する講義
- ・新たなコグニサイズの提案

毎月第2・4水曜日に定期開催されている自主グループ「あおぞらケアサロン」の講師依頼があり参加しました。普段はラジオ体操、さくら体操実施後にオレンジサポーターの方が提示するコグニ



サイズを実施しているそうです。コグニサイズに関して、新たな運動課題の提示と認知症予防に関する講義の希望があり、指導を実施しました。コグニサイズの内容は参加者で円になり、ボールやバトンを回しながら足踏みや横移動、合図に合わせて身体の向きを変えるなどして実施しました。普段のサロンでは道具を使用した課題はあまり実施していないようであり、参加者からも「新鮮だった。」「頭と身体が疲れたが楽しかった。」と声が上がりました。王子光照苑のスタッフからも今後は道具を準備し、実施して下さるとのことでした。今後も積極的に関わっていければと思います。

報告者：堀越陵介（LE訪問看護ステーション王子支店）



区西北部ブロック 練馬区支部
学校保健事業

日時：2024年3月1日（金）

場所：練馬区立光が丘第八小学校

対象者：小学校教職員2名、5年生39名（うち特別支援学級児童5名）

講師：菅野雄大氏（公益社団法人地域医療振興協会 練馬光が丘病院）

アシスタント：理学療法士7名

内容：

練馬区支部では、支部発足直後より多くの学校保健事業に携わらせて頂いています。今回は、当支部の学校保健事業の中でも、長年親交のある光が丘第八小学校で、小学生5年生に向けてケガの予防について講演してもらいたいとの依頼を受け実施させて頂きました。

当日は、授業2コマ分を頂き、「ケガの予防～成長期の体に合わせて～」と題して、練馬光が丘病院の菅野雄大氏による講演と実技が実施されました。はじめに理学療法士についての紹介を行い、障害と怪我の違いや、成長期に多い怪我についてなど前半は座学中心のお話をしました。この座学の講義では、児童が、ただ受け身的に聞くのではなく、スポーツに関するクイズ等を交えたりしながら児童が自発的・積極的に参加できるよう工夫された参加型の座学の講義を実施しました。

その後、後半は、ケガの予防についての実技を実施し、児童たちに自身の身体を知ってもらうために身体の柔軟性を確認してもらったり、通常のストレッチや効果的なストレッチ方法を実際に体験してもらいながら、前後での身体の柔軟性の変化（改善）を実感してもらい、自身の身体への興味や気づき、怪我の予防についての理解を深めてもらいました。今回は、特別支援学級の児童もいましたが、教員のかたたちと児童の情報共有もさせて頂き、一緒に協力しながら実技等の実施もでき、私たちも良い経験をさせて頂きました。

今回の学校保健事業では、児童が自分の身体の柔軟性を体感し、自身の身体やケガについて知る良い機会になったのではないかと思います。

練馬区支部では、今後もこのような学校保健事業を継続的に行い、児童や生徒が安心・安全・楽しい学校生活を送るために、学校教育の場で理学療法士が活動できる一助となればと思います。



報告者：瀧本知未（慈誠会・練馬高野台病院）

区西北部ブロック 練馬区支部

学校保健事業

日時：2024年3月7日（木）

場所：練馬区立橋戸小学校

対象者：小学校3年生22名×2クラス（計44名）

講師：岡崎俊秀氏（慈誠会・練馬高野台病院）

内容：

今回はここ数年深い関りがある区立橋戸小学校の養護教諭の先生より「児童の姿勢が悪い」との話を受け、良い姿勢を保つためにはどうしたらよいかについて授業を行いました。講師は慈誠会・練馬高野台病院の岡崎俊秀氏が務め、講義と実技を交えて2クラスで授業を行いました。

まず、スライドを用いて「よい姿勢とは何か」「悪い姿勢を続けているとどうなるのか」等について話をしました。その後、重りと棒を用いて首の角度が変わるとどれだけ力が必要になるかを感じてもらいました。そして、姿勢によって腕の上がり方や呼吸のしやすさにも違いが出てくることも感じてもらいました。どの児童も真剣な眼差しで授業を受けており、「こんなに重いんだ」「姿勢が悪いと息も苦しくなる」など姿勢が身体に及ぼす影響を肌身で感じていたようでした。

練馬区支部では、引き続き養護教諭を中心とした学校教職員や保護者と協力しながら子どもたちの健やかな成長を支援していきたいと思えます。



報告者：古庄秀明（公益社団法人地域医療振興協会 練馬光が丘病院）

区西北部ブロック部 練馬区支部
学校保健事業活動

日時：2024年3月7日（木）

場所：練馬区立光が丘第八小学校

対象者：小学4年生30名

講師：古庄秀明氏（公益社団法人地域医療振興協会 練馬光が丘病院）

アシスタント：理学療法士9名

内容

練馬区支部では、以前より学校保健事業に携わっており、理学療法士の視点から児童を対象とした生涯教育を行っています。今回はその中でも、小学4年生の総合学習の授業の一環として「車いす体験」について講演依頼を頂いたため、車いすについての講義と体験を実施しました。

当日は前半に車いすについての講義、後半に車いす体験を行うこととし、実際に「体験」してもらうことに重点を置いたプログラム内容でした。講義の中では、理学療法士のことや車いすの名称、安全な使用方法など、普段私たちが臨床現場で実践していることを分かりやすい形で伝えていました。ブレーキをしないで車いすから立ち上がるとなぜ危険なのか等、実際に児童の前で実演することで「転びそうで危ないね。」との声が上がっており、より効果的に車いすの正しい使用方法について伝えることが出来たのではないかと思います。

後半の車いす体験では、自走と介助（介助する方とされる方）をそれぞれ体験してもらいました。前半の講義の直後であったこともあり、ほとんどの児童が車いすから離れる時はブレーキを忘れないように意識していました。また、「車いすを押すのは重くて大変」等の声も上がっていました。児童のほとんどが、楽しみながら車いす体験を実施しており、より自分事として考えるきっかけ作りになったのではないかと思います。

今回の車いす体験を実施したことによって、障がい理解等の生涯教育の一助になればと思います。また、今後もこのような活動を継続していき、小学生の生涯教育に理学療法士として関わっていくことは重要であると感じました。



報告者：水瀬光汰（公益社団法人地域医療振興協会 練馬光が丘病院）

区西北部ブロック 練馬区支部
練馬こぶしハーフマラソン 2024 大会

日時：2024 年 3 月 24 日（日）
場所：都立光が丘公園 陸上競技場
対象者：予防テーピング：100 名
 体重測定：20 名
 相談会：6 名

サポート内容：「ランナーへ走行前の予防テーピングと走行前後での体重測定及び相談会」

【概要報告】

2024 年 3 月 24 日に開催された練馬こぶしハーフマラソン 2024 大会の参加ランナーを対象に、予防テーピング・体重測定と相談会を実施しました。予防テーピングは 2019 年大会以来 5 年ぶりの実施となりました。

事前準備では、当日のサポートスタッフ向けにテーピング研修会を実施し、事前会議では、当日のサポート内容や急変時対応の方法、ランナーに起こり得る体調変化についての講義、当日に使用する問診票を使用してのテーピングテストを実施し、大会当日に向けて準備を行いました。

大会当日、予防テーピングでは、走行中の疼痛や筋疲労を予防することを目的として、問診・評価を実施し、テーピングを施行しました。完走後、数名のランナーがブースまで来て下さり、「いつもよりタイムが縮まったよ」、「痛みもなく完走できたよ」等のお声がけを頂きました。また、相談会では、主にテーピングの巻き方を教えてほしいという相談が多く、セルフテーピングの巻き方をアドバイスさせて頂きました。加えて、マラソン後の身体のケアに関する資料を配布し、セルフケアの方法についての周知活動も実施しました。

今回、練馬こぶしハーフマラソン 2024 大会へのサポート活動を通して、都民・区民の方との交流ができ、地域に貢献する活動ができました。今後も、理学療法士が地域に密着して関わり、都民・区民の傷害予防・健康維持のため公益性のある事業を多く行い、地域に寄り添った活動をしていきたいと思っております。



報告者：瀧本知未（慈誠会・練馬高野台病院）

西多摩南多摩ブロック部 多摩市支部
多摩市支部研修

日時：2024年11月25日（土）

場所：東京医療学院大学

講師：最上谷拓真（聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院）

高橋遼（苑田会人工関節センター病院所属）

参加者：34名

内容：

コロナ禍で開催する事が出来なかった支部研修会を、4年ぶりに対面で開催しました。ヒトとの交流が遮断され職場内でも新人教育が制限される社会情勢であった事から、以前の環境を取り戻す為に対面で実施し、「第一線で活躍する先輩理学療法士から学ぶー急性期理学療法の虎の巻ー」と題して、神経系は聖マリアンナ医科大学横浜西部病院の最上谷琢磨先生、運動器は苑田会人工関節センターの高橋遼先生をお招きし、リスク管理、具体的な評価・介入などについてエビデンスを背景とした講演を展開していただきました。東京都士会以外からの参加者も多く、若い会員のみならずベテランに対してもニーズに対応する十分な内容であったと思います。講演後の休憩時間には数多くの質問者が講師を取り囲んでおり、対面研修で得られるヒトの繋がりも構築できていたように感じました。理学療法の治療技術は、学際的な知見に加えて技術も要求されます。次年度以降もこのような学びの機会を多く用意し、会員の技術力向上に貢献したいと考えています。



報告者：生友聖子（東京医療学院大学）

区中央部区南部島しょブロック部大田区支部
大田区支部 新人向け研修会

日時：2024年4月26日

会場：牧田総合病院 くすのきホール

テーマ：地域で勤務する同世代仲間と交流を深め、社会人として心構えをつくろう

講師：三科 翔（蒲田リハビリテーション病院、大田区支部副支部長）

松下 佳介（東急病院、大田区支部事務担当）

上原 亮介（山王リハビリ・クリニック、作業療法士）

泊 由美（山王リハビリ・クリニック、言語聴覚士）

内容：今回2024年度フレッシュマン研修に参加させて頂き「ラポール形成のためのコミュニケーションのコツ」について学ばせていただきました。

研修の中で、「コミュニケーションの基本は聴く力」という内容がありました。聴くことが下手な人の具体例をいくつか挙げられていたのですが、その中に「沈黙に耐えられない人」という項目があり、自分自身もその項目に当てはまると思いました。

入職して約1カ月、先輩と一緒に治療場面に立ち会う中で、患者様とコミュニケーションをとる機会も多くなってきました。いま思い返すと沈黙に耐えられず、とにかくいろんな質問をして話の主導権を患者様ではなく私をもってしまっていたと反省しました。

今回の研修で良い聴き手の条件の一つとして、「主導権を相手にしっかり渡せる」という言葉が印象的でした。主導権を相手に渡す方法として、敢えて漠然とした質問で委ねることで、相手が主体性を持って色々な情報を教えていただけることを教わりました。そのほかにもすぐに実践できるような、リアクションの方法や質問の仕方、話し方についても具体例を交えながら教えて頂きました。

研修の後半では、グループワークで他施設のスタッフと自己紹介を行い、研修で教わった内容を実践する機会をいただきました。「主導権を相手に渡す」ということを意識して行ってみましたが、簡単なことではないと感じました。今後の臨床で今回学んだことを日々実践し、患者様とより良いラポール形成を築けるセラピストになれるよう今後も努力したいと思いました。



報告者 山口隼平（牧田リハビリテーション病院）

【活動報告】「スポーツ現場でのコンディショニングについて」

日時：2024/04/19 19:00～20:30

会場：国立青少年総合オリンピックセンター センター棟 514号室

講師：板倉尚子先生（スポーツ局局长）

アシスタント：岩山睦（スポーツ局人材育成部部长）

参加者：東京都理学療法士協会 26名

内容：

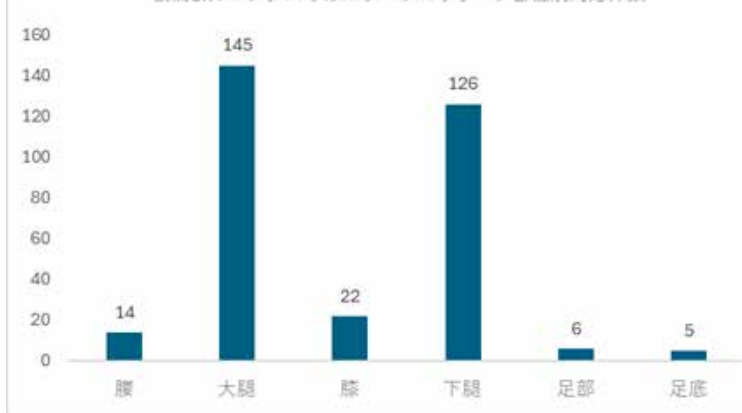
スポーツ局人材育成部では、スポーツ現場で活躍するセラピストを育成するために、ブラッシュアップ研修会を開催しています。今回は、マラソン大会に向け、スポーツマッサージやキネシオロジーテーピングを用いたテーピング法をスポーツ局局长板倉先生にご講義頂きました。

実際に相手の身体に触れ、変化を観察し、相手や講師の先生からフィードバックを頂くことで、対面研修会でしか得られない学習が得られました。

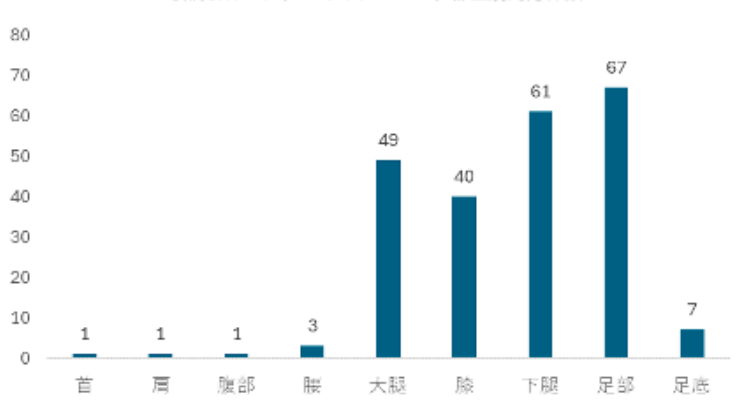
3/17に開催された板橋CITYマラソンには、研修会参加者のうち12名がサポート活動に参加しました。対応件数は、テーピング146件（複数回答あり：首1件、肩1件、腹部1件、腰3件、大腿49件、膝40件、下腿61件、足部67件、足底7件）、スポーツマッサージ242件（複数回答あり：腰14件、大腿145件、膝22件、下腿126件、足部6件、足底5件）でした。今回の研修会で研鑽した技術をスポーツ現場で活かすことが出来ました。

人材育成部では、今後も現場に活用できる研修会を企画します。随時情報を公開していきますので、ご参加をお待ちしております。

板橋CITYマラソンでのスポーツマッサージ部位別対応件数



板橋CITYマラソンでのテーピング部位別対応件数



報告者 スポーツ局 人材育成部 部長 岩山 睦（浮間中央病院）

【活動報告】 第33回全日本テコンドー選手権大会 メディカルサポート

- ・日時：2024年03月24日（日）
- ・場所：町田市立総合体育館メインアリーナ
- ・参加者：134名（対応件数6件）
- ・参加理学療法士：2名

この度、国際テコンドー連盟全日本協会様のご依頼を受け、全日本テコンドー選手権大会に東京都理学療法士協会から2名の理学療法士がメディカルスタッフとして参加させていただきました。参加選手は134名で小学生の部から一般の部まで幅広い年代の方々が参加していたこともあり、非常に熱気ある大会をサポートさせて頂く機会を得ました。

対応件数は6件で脳震盪疑い2件、顔面打撲、足関節捻挫、手関節捻挫、鼻出血など多岐にわたっており、応急処置やテーピング等の急性期対応を行いました。事前に大会本部・施設管理者と救急搬送の段取りをしておいたことで、緊急時もトラブルなく対応する事が出来ました。

現場で親身にご指導下さった全日本テコンドー連盟全日本協会のスタッフの皆様、そして選手の皆様には心より感謝申し上げます。今回の経験をもとにより良いメディカルサポートができるよう精進していきます。



報告者：スポーツ局 人材育成部 向家知宏（浮間中央病院）

【活動報告】東京マラソンファミリーラン 2024

- ・日 程：2024年3月3日
- ・会 場：第一生命日比谷ファースト及び東京マラソンフィニッシュエリア周辺
- ・対応者数：4名
- ・派遣者数：5名

東京マラソンファミリーランは東京マラソンの盛り上がり幅広い世代の方に幅広い世代の方に味わっていただきたいという思いから、東京マラソン当日に親子で楽しめるファンランイベントとして誕生したとのことです。今回、参加者は437組（874名）の小学生と保護者が参加されました。参加者の中には車いすでの参加もあり、この度サポート依頼を頂きましたので報告致します。



スポーツ支援・推進部では、地域で実施している

車いす陸上教室のサポート活動を行っています。その経験を活かし、東京マラソンファミリーラン2024でも車いすでの走行者の円滑なアテンド、伴走やご家族様の誘導を行いました。イベント前にコース周辺の下見を実施し、サポートスタッフ間で打合せを重ねて当日のイベントに望みました。昨年よりも参加者が多かったです。スタッフの間でも事前準備を重ねた甲斐もあり事故やトラブルなくイベントを終了することができました。参加されたお子さんはフィニッシュ後には笑顔が沢山見られました。これからもスポーツイベントで多くの方に楽しんで頂けるよう工夫しながらサポートしていきます。事前打ち合せからご協力下さいました関係者の皆様へこの場をお借りして御礼申し上げます。

報告者：スポーツ支援・推進部 生井 真樹（世田谷人工関節・脊椎クリニック）



© 東京マラソン財団

【活動報告】 杉並区ユニバーサルタイム

日程：2023年3月24日、2024年4月20日、
2024年5月1日（計3回）

会場：荻窪体育館、上井草スポーツセンター

参加者数：延べ74名

派遣者数：延べ14名

昨年度のユニバーサルタイムを終え、引き続き今年度もユニバーサルタイムがスタートしております。今年度は荻窪ユニバーサルタイム全12回、上井草ユニバーサルタイム全8回の計20回と昨年度に比し事業拡大し実施回数が増える予定です。



第1回目から約1年半が経過し、参加者の方は新規の方に加え、リピーターの定着もしてきました。リピーターの方においては徐々に姿勢の変化や活動量の増加、自立性の向上等がみられ、毎回楽しそうに参加されている姿が見受けられます。

また、もっと負荷の高い運動をしたい、自分でもできるものをチャレンジしたいと次のステップへの目標へ向けた声も聞かれるようになってきました。

ユニバーサルタイムは各メディアにも取り上げられるようになってきており、全国的にも注目されている事業となってきました。今後も事業拡大し新たな施設での開催に視野に入れており、理学療法士としての専門的な知識・スキルはより大きな役割となると考えております。

事業拡大に向けてもっと理学療法士のパワーが必要となってきますので、皆様のご協力をぜひお貸しいただければ嬉しいです。ご興味がある先生はスポーツ局までご連絡下さい！



報告者：スポーツ局スポーツ支援・推進部 西條 攻（(株)ブルーリボン）

【活動報告】 EDORIKU パラ陸上教室サポート

- ・日時：5月3日
- ・会場：江戸川区陸上競技場
- ・参加者：14名
- ・参加理学療法士：8名

内容

江戸川区で毎年行われている「EDORIKU パラ陸上教室」の第1回目の教室が行われました。この教室は年に5回の開催を予定しており、競技用車いすを使用した技術指導をはじめ、体力や筋力をつけるトレーニング、日常生活における心構えなどの座学、と様々なプログラムを実施しています。

サポート内容としては、レーサー車いすのチェック、準備体操・整理体操、移乗介助とシーティング、車椅子走行の安全確保のための伴走、降車後のボディチェックなどを行っています。

今回は本年度最初の教室ということで体力テストのダッシュボール投げ、シャトルラン、100m走の計測も加えて行いました。講師の先生が目標を立て続けることの大切さを強く訴えており、毎年参加する生徒さんも初参加の生徒さんも今年度の目標を立て体力測定に挑んでいました。

教室を重ねるごとに徐々に参加者も増え、サポートメンバーとして安全で楽しい教室、目標をみつけれられる場所となるように講師の先生、江戸川区のボランティアメンバーなど全員と協力してサポートしていきたいと思います。

今後も参加者の皆様に、体を動かす楽しさを伝えていきたいと思います。今回ご協力下さった皆様有難うございました。



報告者 スポーツ局 スポーツ支援・推進部 安達瑠那(森山記念病院)

【活動報告】江戸川区パラスポーツ初心者教室サポート

- ・日程：2024年3月9日、5月11日
- ・会場：江戸川区中平井コミュニティ会館、葛西区民館、小岩アーバンプラザ、
- ・参加者総数：延べ28名
- ・派遣者総数：延べ10名

2023年度は江戸川区内の3か所で各全5回・合計15回、2024年度から1か所増え、4か所で各全5回・合計20回の「パラスポーツ初心者教室」を開催いたしております。障害がある方や運動実施に不安がある方のために、ストレッチや体操、筋力トレーニング、パラスポーツ体験を行う教室になっております。

マイティポールというノルディックウォークのようなポールと、ダンベルボールボルレッジという500mgの柔らかいボールを使用したエクササイズ、風船を使用したエクササイズ、最後にボッチャにも挑戦してみました。その中で私たちは、参加者の方々が無理なく安全に運動が行えるように、また全てをサポートするのではなく、難しい動きのみをサポートする事で「自分で動かしている」という認識と充実感を持って頂くことができたのではないかと思います。今後もこのような機会が少しずつ広がり、色々な年代のたくさんの皆様が、楽しく笑顔で運動できることで、充実した生活を送ることができるようサポート活動を続けていきたいと思っております。今回ご協力下さった皆様に感謝いたします。

報告者：スポーツ局スポーツ支援・推進部 鈴木真治（森山ケアセンター）



【活動報告】パラフェンシング練習会

- ・日時：2024年2月17日、3月2日、3月16日(計3回)
- ・場所：江戸川区スポーツセンター
- ・参加者：延べ21名
- ・参加理学療法士：延べ6名

江戸川区スポーツセンターで行われている車いすフェンシング練習会のサポートを東京都車いすフェンシング協会様からご依頼を受けてサポートしております。

練習会では参加者も増え、互いに切磋琢磨している様子が見受けられ、さらに活気が出てきていると感じております。

また、サポートを開始した当初は表情や発言が少なく、動作が緩慢であった参加者も、他の参加者とコミュニケーションや会話の中で冗談をおっしゃったり、運動の発現が以前より早くなる等の変化があり、このような環境の必要性を改めて感じました。

2023年度をもちまして、当練習会のサポート事業は終了致しますが、競技性を考慮した運動指導や、シーティング等、これまで病院では学ぶことのできないことを多く学ばせていただき、誠にありがとうございました。

車いすフェンシング練習会に関わっておられる東京都車いすフェンシング協会様、コーチの皆様、参加者の皆様、サポートいただいた理学療法士の先生方に感謝申し上げます。今後も車いすフェンシングの発展と、地域共生社会実現を願い、心から応援しております。



報告者：スポーツ局 スポーツ支援・推進部 宮川 大(武蔵野みどり診療所)

【活動報告】フェンシング大会会場サポート

- ・日 時：3月2日、3日、4月19日・20日・21日・27日・28日・29日、5月8日・9日・10日・11日・12日・13日・14日・15日・16日・18日・19日（延べ19日間）
- ・場 所：駒沢オリンピック公園屋内競技場、世田谷区大蔵第二運動場体育館、江戸川区総合体育館、北区赤羽体育館
- ・参加者：延べ3616名
- ・派遣者数：延べ50名

スポーツ支援・推進部では、本年度もスポーツ現場活動を希望する理学療法士を募りフェンシング競技大会のサポートを継続しております。この度は日本フェンシング協会様、東京都フェンシング協会様、関東学生フェンシング連盟様、江戸川区フェンシング協会様から各大会のサポートのご依頼をいただきました。

サポート内容は、大会参加選手の試合での応急処置やテーピング等の急性期対応、選手の身体の相談やトレーニング方法指導等を行っております。大会は連日の開催や同日の別会場の開催もありましたが、サポートメンバーと分担、協力しながら活動を行ってまいりました。

大会では、小学生からシニア・ベテランと幅広い年代の選手への対応をしております。大学生の大会では日々の練習の成果を発揮するために熱戦が続くなか、連戦による疲労や慢性的な怪我を抱えながらプレーをする選手もいるなかでのサポート活動でした。

新年度になり新しく加入したサポートメンバーとともに、今後



も選手が安全に、そして大会が滞りなく終わられるようサポートに努めていきたいと思っております。



報告者：スポーツ局スポーツ支援・推進部
伊藤弘崇（新渡戸記念中野総合病院）

【活動報告】フェンシング報告会

- ・日時：2024年2月27日（火）
- ・会場：TKP 新宿カンファレンスセンター
- ・参加者：20名

スポーツ局スポーツ支援・推進部では、東京都フェンシング協会様より依頼を受け、本年度も約60大会の救護サポートを行いました。1年間の活動報告と次年度に向けた取り組みを議論する目的で、今回の報告会を実施しております。

東京都フェンシング協会医事委員で医師の中山修一先生、スポーツ局外部委員で弁護士の阿部新治郎先生、東京都フェンシング協会専務理事の辻村眞一郎先生にご参加頂き、外傷発生状況や熱中症予防の対策、理学療法士がスポーツ現場での活動を行うにあたり注意すべき事を議論致しました。

普段サポートに参加しているスタッフからも日頃のサポートで感じていることや疑問点に関してディスカッションすることが出来、非常に有意義な会議となりました。医学的な観点や法律的な観点から、選手が安全に競技する環境をつくるにはどうすれば良いか考える事が出来ました。今回の会議をもとに、来年度のフェンシング競技大会で選手たちが安全に競技出来る環境を作っていきたいと思えます。今回会議に参加していただきました方々に感謝申し上げます。



報告者 スポーツ局 スポーツ支援・推進部 生井真樹（世田谷人工関節・脊椎クリニック）

【活動報告】 青山学院大学フェンシング部サポート

- ・日時：2024年1月6日、2月10日、2月13日、2月17日、3月2日、3月30日、4月6日、4月27日（計8回）
- ・場所：青山学院大学体育館
- ・参加者：延べ184人
- ・参加理学療法士：延べ16人



内容

スポーツ支援・推進部では、引き続き青山学院大学フェンシング部のサポート活動を行っております。4月からは新入生も入部しており、部内の雰囲気と活気がパワーアップしております。

我々は常に選手たちの健康とパフォーマンス向上に尽力しており、怪我の予防の観点では年々大きな怪我がでていないのは、我々がサポートしている意味があるのではと感じております。

今後も新入生も含め、勝利に繋がる身体のサポートを徹底し、選手たちが最高のパフォーマンスを発揮できるよう、更なる精進を重ねていきたいと考えております。



報告者 スポーツ局 スポーツ支援・推進部 平良寛朗（池上総合病院）

【終了報告】第 39 回品川区防災フェア その1

日 時：2024 年 3 月 9 日（土） 10 時 30 分～ 15 時 00 分

場 所：しながわ中央公園

対 象：理学療法ブースに来場された約 800 組、約 2000 名

指導教官：板倉尚子局長、鈴木享之次長、渡邊祐介部長、森本孝則副部長、岩山睦部長（人材育成部）

スポーツ局外部委員／佐伯 潤先生

小中学生向け防災プログラムである「防災サイコロ」を、防災フェアに向けて改変した内容を実施しました。

サイコロの出目に応じて、フェア内の他社・団体ブースの内容を紹介し、より深く学習する情報の提供をしました。情報の内容と関連する企業・団体は以下に示す通りです。

- 1：感震ブレーカー（東京電力パワーグリッド、関東電気保安協会、東京都電気工事工業組合）
- 2：消火器（東京都消防設備協同組合 第 4 支部、しながわ防災体験館）
- 3：ガスメーター（東京ガス）
- 4：171 災害時伝言ダイヤル（NTT 東日本）
- 5：防災用品 / 簡易トイレ（東京都葛飾福祉工場）
- 6：地震体験車

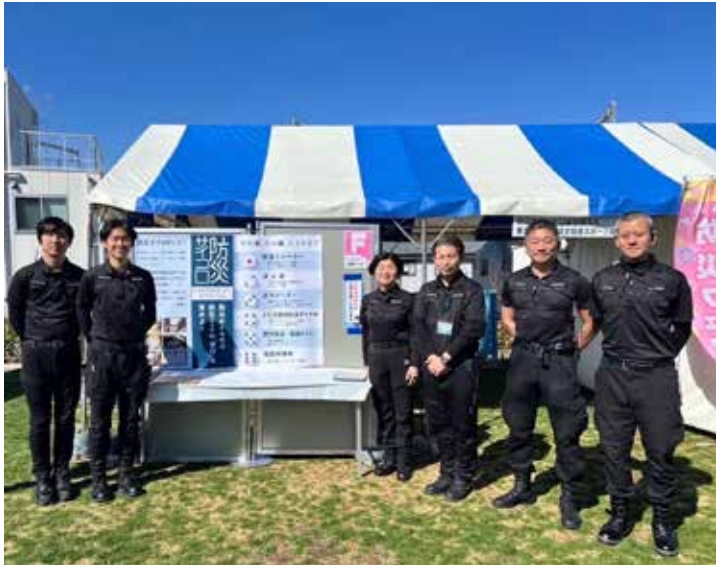
今年の私たちのキャッチフレーズは「小さな気づきで、あなたの防災をレベルアップ」を掲げ、昨年は 3 名の教官にて 201 組 541 名の対応でしたが、今年は指導教官を増員したことにより 417 組 1,044 名に対してサイコロを振ってもらい上記の学習を提供することが出来ました。準備をしたパンフレットの残数より算出すると推定される東京都理学療法士協会ブースの集客総数は、約 800 組、約 2000 名となり、多くの都民の皆様に対して防災の知識と東京都理学療法士協会、防災サイコロの活動を周知することが出来ました。

今後の展開・展望としては、学校安全である災害安全、生活安全において東京都理学療法士協会の活動を広く知ってもらい、都民の皆様々の安全と健康を守る活動を続けていきたいと思っております。

昨年に引き続き、このような貴重な機会を提供して下さいました品川区役所防災課の皆様々に心よりお礼申し上げます。

報告者：子どもの健康・安全部 森本孝則

【終了報告】【終了報告】第39回品川区防災フェア その2



知っているだけで違う!
品川区防災フェアで
知識と体験をゲット

第39回品川区
**防火
フェア**

防災は
もっと身近!
おとなも子どもも、
防災を知っている人も
知らない人も、
防災について
気軽に学ぼう!!

入場無料
日時 3月9日(土) 10:30~15:00
しながわ中央公園

スタンプラリー
防災グッズ・おもちゃ・
シールがくんとグッズが
もらえる
スタンプラリーもあるよ
※会場に予備選取券を配布します。



【活動報告】 パラスポーツ実技研修会

【日時】 2024年2月24日 10:00～13:30

【講師】 山田晴信氏 田中顕一氏 (日本ハンドサッカー協会)

【会場】 東京都障害者総合スポーツセンター

【参加者】 7名

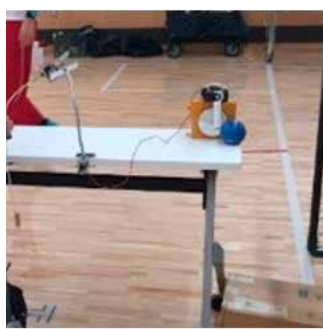
【内容】 重症心身障がい児・者を対象としたハンドサッカー実技研修会を開催しました。講師には特別支援学校の教諭でもある山田晴信先生を招聘し競技特性やルール、支援方法など講義の後、実際にハンドサッカーを行っている当事者とゲーム体験を行いました。田中顕一先生からは、顔面筋を動かすことでスイッチ入れシュートにつなげる装置など、障害に適したデバイスについてご紹介いただき、参加者はみな感銘を受け、重度な障害でも方法やデバイスを適応することによりインクルーシブにスポーツを体験できることを学びました。障がい児・者のパラスポーツサポート活動につなげることができるPTが増えるよう、引き続き活動を続けて参ります。

スイッチ



左図) 紐を下にひくとスイッチがオンとなり、接続されている装置の回転バーが動き出し、シュートする。

右図) 残存する機能を使いゲームコントローラーに接続されたスティックを操作し、ラジコンカーでボールを運びシュートする。



スイッチにつながれている装置



表情筋の収縮のより、つながれているコンプレッサーにスイッチが入り、ランプに置かれている袋に空気が送られ、ボールを押し出しシュートする。

報告者：水口健一 (東京都リハビリテーション病院)

スポーツ局 登録者募集中のお知らせ



スポーツ理学療法研修会



地域スポーツサポート

東京都理学療法士協会 スポーツ局

こちらをクリック！

登録者募集中！



<https://x.gd/zAAKn>

スポーツ局の活動と一緒に参加してみませんか！



都内小中学校の運動指導



フェンシングサポート

【事業報告】 倫理委員会研修会

「メンタルヘルスの不調から職場復帰をしたスタッフを迎える側の心得」

開催日時：令和6年2月20日（火）19：00～20：30

開催場所：WEB開催（ZOOM）

参加者：22名

講師：上 蘭 紗映氏（日本精神心理領域理学療法研究会）

内容：厚生労働省から公表されている令和4年の労働安全衛生調査によれば、メンタルヘルス不調により連続1か月以上休業した労働者又は退職した労働者がいた事業の割合は令和3年度より増加しており、ストレスとを感じる事柄がある労働者の割合も増加傾向との報告があります。今回は、職場において、復帰したスタッフをどのように迎え入れたら良いのかについて、講義をして頂きました。



メンタル不調の要素を「個人的要素」・「プライベート環境」・「職場環境」の3つに分けた場合には、「職場環境」に対してが取りくみやすいというお話から始まり、日本のワークエンゲージメントの課題、理学療法士の業界が抱える特有の課題などについてもお話頂きました。講義中はチャット機能を使用して、休職者が出た時・復帰する時に何が起こるのかを参加者皆で共有する機会もありました。

休職した時・復帰準備・復帰初期のそれぞれの期に確認・実施すべきこと・注意点等を具体的にお話頂き、メンタルヘルスケアにおいては、職場内だけでなく、外資源も活用することの大切さも教えて頂きました。日頃から他部署との関りの機会を多く設けることも有効的であるということも知り、組織作りにもとても参考になる研修会でした。



報告者：齋藤弘樹（大橋病院）

執筆投稿規定

1. 学術研究論文
2. 教育関係論文
3. 症例報告論文
4. 行政及び士会運営に関する論評等

【投稿者の資格】

公益社団法人東京都理学療法士協会会員に限る。但し会長が依頼した場合この限りではない。

【投稿原稿の条件】

投稿原稿は他誌に発表、または投稿中の原稿でないこと。本規定に従って作成すること。

【著作権】

本誌に搭載された論文の著作権は東京都理学療法士協会に属する。

【研究倫理】

ヘルシンキ宣言に基づき対象者の保護には十分留意し、説明と同意などの倫理的な配慮に関する記述を必ず行うこと。

【原稿の採択】

原稿の採択は複数の査読者の意見を参考に編集委員会において決定する。査読の結果、編集方針に従って原稿の修正を求めることがある。また、必要に応じて編集委員会の責任において字句の訂正を行うことがある。

【執筆規定】

1. 論文構成

- 1) 標題（表題）：内容を具体的かつ的確に表し、できるだけ簡潔に記載する。原則として略語、略称は用いない。
- 2) キーワード：標題及び要旨から3個を抽出する。不十分な場合は本文から補充する。
- 3) 著者名、所属名
- 4) 要旨：「目的」「方法」「結果」「結論」を含めて400字程度で記載する。
- 5) 本文：下記の各部分から成り立っていることを原則とする。

① はじめに（序論、諸言、まえがき等）

② 対象および方法（症例紹介）：倫理的配慮を記述すること。

③ 結果

④ 考察

⑤ 結論（まとめ）

⑥ 文献：引用文献のみとして本文の引用順に並べる。本文の該当箇所の右肩に一連番号を付ける。引用文献の著者氏名が3名以上の場合、最初の2名を記載し、他は「・他」あるいは「et al.」とする。雑誌の場合は著者氏名、論文題目、雑誌名、巻、号、頁、西暦年号の順に記載する。単行本の場合は著者氏名、書名、編集者氏名、発行所名、発行地、年次、頁を記載する。

<表記例>

・藤田信子, 柘田康彦・他: 椅子座位における側方傾斜刺激に対する頸部・体幹・四肢の筋活動一筋電図学的分析. 理学療法学, 17:27-30, 1990.

・Sepic, S.B, Murray, M.P, et al.: Strength and Range of motion in the Ankle in Two Age Groups of Men and Women. Am. J. Phys. Med, 65:75-84, 1986.

・真島英信, 猪飼道夫: 生体の運動機能とその制御. 杏林書院, 東京, 1972, pp185-193.

・Junda, V.: Muscle Function Testing Butterworths, London, 1983, pp224-227.

6) 図表

原寸でそのまま掲載する（作図や縮小はしない）。図の番号および標題は図の下に、表の場合は表の上につける。本文と図表は分けて作成し、表・図・写真の挿入位置を本文の右欄外に指示する。

2. 原稿規定分量

原則として400字詰め原稿用紙20枚・8000字以内とする。

3. 文字表記

原則として現代かな使い、数字は算用数字、単位は国際単位系（SI単位）を用いる。

4. 略語

略語は初出時にフルスペルあるいは和訳も記載する。

5. 表紙頁、著者頁

論文には表紙頁と著者頁をつける。表紙には標題、キーワード(3個)、本文ページ数、図表枚数、原稿文字数を記載する。著者頁には著者名、所属名、責任者連絡先(住所・電話番号・Emailアドレス)を記載する。表紙頁、著者頁の後に要旨・本文・図表を改めて記載する。

6. ページ番号・行番号

原稿にはページ番号(最下部中央)と本文右(または左)に5行ごとに行番号を記載する。

【原稿送付方法および連絡先】

1) 原稿送付先

原則として投稿原稿一式を1つのファイルにまとめ、

電子メールに添付して下記へ送付する。上記が不可能な場合は問い合わせること。

2) 原稿送付先および連絡先

〒189-0024 東京都小金井市中町2-22-32

社会医学技術学院 理学療法学科

(担当者) 中山雅和

TEL: 042-384-1030

FAX: 042-384-8508

E-mail: pt_tokyo_kikanshi@yahoo.co.jp

(平成31年1月31日 改定)

編集後記

東京都理学療法士協会会員の皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか? 230号は全30ページとなりました。今年度は皆様ご存知の通り診療報酬、介護報酬、障害福祉サービス等報酬のトリプル改定があり、会員諸氏におかれましては対応に追われたものと考えられます。本当にお疲れ様でございます。また来たる6月8日(土曜日)東京都理学療法士協会代議員定時総会が開催予定となっております。代議員の皆様よろしくお願い致します。土会活動への積極的関与を願っております。さらに広報部ではTwitter、facebook、InstagramのSNSアカウントを運用しております。様々な媒体を通じて東京都理学療法士協会の活動は発信してまいります。今後ともよろしくお願い申し上げます。(M.I)

X (Twitter)

facebook

Instagram



https://twitter.com/TPTA_PR2023



<https://www.facebook.com/profile.php?id=100091964630282>



https://www.instagram.com/tpta_pr2023/

公益社団法人 東京都理学療法士協会 正会員数

10,862名 (令和6年5月25日現在)

(事務局) 〒151-0053

東京都渋谷区代々木 1-58-7 ヴェラハイツ代々木 201

Tel: 03-3370-9035 FAX: 03-3370-9036